

教科名	音 楽	科目名	音楽理論（2年次）【2単位】	
授業形態	講義形式での授業展開			
選んでほしい生徒	音楽Iを履修した者で、音楽での受験を考えている場合は、2、3年次と継続履修することが望ましい。音楽の基礎的な理論に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。			
科目の目標	音楽に関する基礎的な理論を理解させるとともに、表現と鑑賞に活用する能力を養う。			
身に付けてほしい学力	理解した音楽に関する基礎的な理論を、実際の音楽活動に活用できる能力や、四年制音楽大学、短大及び音楽系専門学校受験に対応できる基礎的な知識の習得を目指す。			
学習計画	単元・教材		学習のあらまし	
	<p>【1学期】 音の長さや高さ、記号と用語 音程、音階 練習問題</p> <p>【2学期】 音階、和音、西洋音楽の作曲家 楽器も分類、声の種類 練習問題</p> <p>【3学期】 コード・ネーム、日本の楽器 形式、音楽史、総合演習問題 1年間のまとめ</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜の仕組みについての原理を学ぶ。</li> <li>・音楽の仕組みについて、音程、音階、和声問題の解法を身に付けていく。</li> <li>・音楽史や楽器、音楽の形式や形態など、幅広い知識を身に付けていく。</li> <li>・内容によっては、鑑賞や実技形式の学習も行う。</li> <li>・総合的な演習問題を行う。</li> <li>・1年間のまとめをする。</li> </ul>	
評価の観点・評価方法	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	・音楽を愛好し、音楽の理論や楽曲の形式に関心を持ち、意欲的・主体的に学に取り組もうとする。	・音楽に関する基礎的な理論を理解することで、楽曲の形式にふさわしい音楽表現について考察し、表現活動に活用できる能力をもっている。	・音楽に関する基礎的な理論を理解することで、多様な音楽を表現するために必要な技術を考察し、表現活動に活用できる能力をもっている。	・音楽に関する基礎的な理論を理解することで、音楽や音楽文化に対する理解を深め、創造的な鑑賞活動に活用できる能力をもっている。
	上記の観点を踏まえ、定期考査、提出物、授業態度を総合的に判断して評価する。			
学習のアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎時間の進度が速いので、休まず授業に出席して知識の習得に努めたい。</li> <li>2 定期考査では、範囲が広いので、日ごろから予習と復習に努めたい。</li> <li>3 理論に基づいた音楽に対する価値や評価を積極的に言葉にし、表現活動に活用できるようにしたい。</li> </ol>			
教材費	980円（改訂 音楽通論 教育芸術社）、各自で五線符を準備すること。			
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 何かの検定につながることはない。</li> <li>2 音楽大学受験のための学習が主であるが、それ以外の生徒の選択も可能である。</li> </ol>			